

施工対応室の紹介

The Introduction of Engineering Support Section

当社は建設コンサルタント業務を通して、企画段階から設計を経て施工に至るまでの一貫体制を整えました。

幅広い技術サービスを提供するため施工対応室はその一役を担います。

益田 栄治 *



1. 組織概要と目的

当面施工技術に知見を有する2名の技師長と室長の3名を構成員として発足します。

各現業部業務にスタッフとして参加して、現場技術の観点から仮設工、施工技術等に関する技術指導・支援を行います。

2. 施策

以下に関して、業務参画と担当技術者への技術指導・支援を行います。

- ① 施工の実態に配慮した設計の実施
- ② 設計段階で予想される施工時の問題点と、解決策の明示・提案
- ③ 施工現場での問題に対する迅速かつ的確な対応
- ④ 当社設計現場へのフォロー

3. なぜ施工対応室か？

高度情報化の進展と公共工事費縮減という社会的要請を背景として、建設部門は大きな変革の時代を迎えつつあります。これは不可避免的に①企画②計画③調査・設計④積算⑤施工⑥維持管理⑦解体など、建設事業ライフサイクル全般に及ぶものと考えなければならないでしょう。

私達建設コンサルタントが日常的に業務分野としているのは、上記ライフサイクルのうちの②～③であり、いわゆる上流域に位置しております。従って、変革の時代をもちだすまでもなく、建設

コンサルタントには、これまでも業務分野に止まらない、全体に対する理解と認識が求められてきました。しかし残念ながら提案力の不足、施工技術への理解の不足など、建設コンサルタントへの苦情が必ずしもなくなっていないのが現実です。これらへの対応力を早急に具備しなければならぬ所似であります。

建設分野における情報化の端的な例としては、実施が具体的日程にあがりつつある「建設CALS」があります。また、公共工事費縮減については、自治体等で施行が開始されたVE制度があります。これらに対応するためには、最上流の企画分野もさることながら、これまではいわゆるゼネコンの対応分野とされてきた④～⑦に対する理解と知見、技術の向上が不可欠なものとなるでしょう。誤解を恐れずに言うならば、今までは素養として必要とされていたものから、必須の能力として要求されるものになるということです。

施工対応室の創設には以上のような社会的背景があります。もちろん、事が一朝一夕に実現する程簡単ではないことは承知の上です。諸姉兄には日常業務のなかで積極的に施工対応室を利用することを期待しますし、そのための協力を惜しみません。

社としての現場対応力の強化を図る一方、施工技術及び経験の蓄積を計り、諸姉兄が幅の広い技術者として成長するための力となれるよう努める所存です。

*) 施工対応室 取締役室長 (RCCM:土質及び基礎) Eiji MASUDA

技師長 梅沢 悟朗



昭和12年11月21日
火薬取扱保安責任者（甲）
1級土木施工管理技士
監理責任者

業 務 経 歴

昭和40年9月 大夕張排水工事
昭和44年1月 高速電車隧道部工事
昭和45年4月 高速電車隧道部他工事
昭和47年4月 厚沢部町地内道路改良工事
昭和50年11月 高速電車隧道部他工事
昭和52年4月 幌加内町地内トンネル工事
昭和54年1月 札幌下水道工事
昭和58年6月 小樽市地内道路改良工事他
平成8年2月 技術指導

自 己 紹 介

土木工事も工種に依っては新しい技術が開発され、また工事費のコスト削減等の問題もあり対応に限りがありますが、今まで培ってきた経験と人脈により少しでも設計にお役に立てるよう努力して参りますので気軽に相談に来て下さる様お願い致します。

技師長 谷本 森茂



昭和14年4月22日
火薬取扱保安責任者（甲）
1級土木施工管理技士
監理責任者

業 務 経 歴

昭和41年4月 マレーシア灌漑
昭和44年4月 豊平峡ダム工事
昭和47年6月 手稲下水道工事
昭和49年1月 青函ずい道（吉岡）JV工事
昭和57年9月 青函ずい道（吉岡）JV工事
昭和59年4月 リオ・グランデ水力発電所工事
昭和61年6月 道南土木工事
平成8年2月 技術指導

自 己 紹 介

建設分野では、確かに計画設計と施工に係わる業務上の溝を埋め、無理無駄のない公共施設の整備が求められてきております。

然し、土木の施工技術力は、経験や実績によるところが多く、この観点から限られた経験ではありますが、これを活かして業務の質的な向上に資するために、施工対応室の目的に沿う努力をしたいと思っております。